

概要書

～姫路駅 北駅前広場計画の都市計画変更案（市素案）～

姫路市では「姫路市都心部まちづくり構想」（平成18年3月）等を踏まえ、播磨の中核都市・姫路の玄関口・新たな顔づくりに向けて、キャスティ21・エントランスゾーンの整備計画の策定に取り組んでいます。

このゾーンの中核を担う新北駅前広場整備にあたり、交通結節機能をより高めるとともに、誰もが利用しやすい駅前広場とするため、都市計画の見直し等が必要と考えています。

今回、検討過程の一つとして、これまでにいただいた市民の皆様からのご意見を参考に、「**姫路駅北駅前広場の都市計画変更案（市素案）**」を作成しました。

◆現在の姫路駅北駅前広場周辺の問題点について（図-1を参照）

現在の姫路駅北駅前広場は、昭和32年に都市計画決定され、昭和34年に完成しました。整備後半世紀が経過し、現在の駅前広場の周辺ではさまざまな問題点が指摘されています。

◆姫路駅北駅前広場計画（昭和62年計画）の課題について（図-2を参照）

現在の北駅前広場の問題点を踏まえて、鉄道高架に伴う道路網計画の見直しにより、昭和62年に駅前広場の都市計画を変更しています。計画の変更後約20年が経過し、この間の状況変化や市民意見を踏まえ、現在の計画（昭和62年計画）の課題を整理しています。

◆姫路駅北駅前広場計画の見直しの視点について

現在の計画（昭和62年計画）の課題を踏まえ、次の点に留意し、**都市計画変更参考レイアウト図と駅前広場整備イメージ**を作成しました。

- ①安全・快適な乗継ぎと公共空間の確保
 - ・中央コンコース前の空間を広くとり、乗り継ぎを分かりやすくするとともに、姫路城の眺めや駅前のゆとりを確保します。
 - ・バスターミナル・乗降場を一箇所にまとめ、鉄道やバスとの乗り継ぎを便利にし、公共交通機関を使いやすくします。
- ②新駅ビルと一体となった歩行空間の確保
 - ・新駅ビル1階の一部に歩行者の通行・たまり空間を整備し、駅前広場と一体となった歩行者ネットワークを形成します。
- ③安全な地下空間と賑わいづくり
 - ・現駅ビル跡地に水や緑を配したサンクンガーデン（吹き抜けの地下広場）を整備し、地下街との一体性を高めるとともに、交流・賑わい空間を創り出します。
- ④バス・タクシー待機場所の高架下での確保
 - ・バス・タクシーの待機車両を減らし、駅前の景観や環境を改善するため、高架下等の離れた場所に待機場、駐車場を整備します。

◆都市計画変更の内容 ～参考～

駅前広場の施設配置計画（レイアウト）の見直しに伴い、次の都市計画の手続きが必要となります。

- ①駅前広場の区域変更

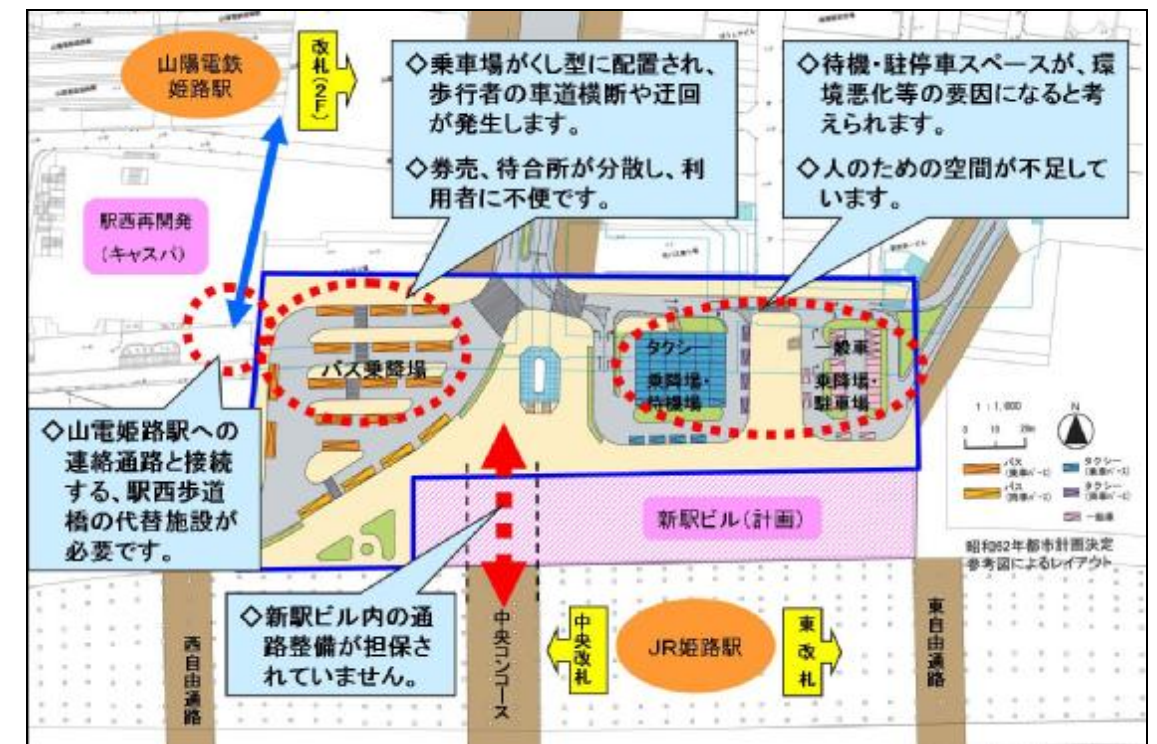
駅前広場の区域を変更します。（参考レイアウト図：青点線（変更前） → 青実線（変更後））
- ②交通広場の決定

立体都市計画制度を活用し、新駅ビルの1階部に交通広場を決定し、立体的な範囲を定めます。

図-1 現在の姫路駅北駅前広場周辺の問題点



図-2 姫路駅北駅前広場計画（昭和62年計画）の課題



※さらに詳しい計画内容の説明については、閲覧場所に備え付けの別添資料又は姫路市ホームページをご覧ください。